

西海国立公園 平戸島・生月島地域 指定動物

# タイワンツバメシジミ

草地を舞うチョウと生息環境の保全



*A Guide to Conserving *Everes lacturnus* and Its Habitats*

## タイワンツバメシジミ



タイワンツバメシジミ（学名 *Everes lacturnus*）は、昆虫類のチョウの中でシジミチョウ科に属する小型の種です。

和歌山県、四国、九州、南西諸島に分布していましたが、各地で生息地が大きく減少し、現在では、九州の限られた場所で見られなくなりました。現在残っている場所でも生息環境は脆弱となっており、個体数も少なく、守るための取り組みが急務となっています。

このため、環境省のレッドリスト 2020（絶滅のおそれのある野生生物についてまとめたリスト）において、南西諸島に生息する亜種が「絶滅危惧 IA 類」に、四国、九州に生息する亜種が「絶滅危惧 IB 類」に指定されており、また、西海国立公園（平戸島・生月島地域）では、指定動物に指定されています。

タイワンツバメシジミが生息する環境は、牛馬の飼育等に利用するために維持されてきた採草地、農地周辺、植林地や伐採地などの丈の低い草地や草原です。人の生活と密接にかかわってきた場所が多かったものの、人の生活の変化によって、生息環境が大きく変化し、それとともにこのチョウも急速に失われてきました。タイワンツバメシジミは、広域にわたって良好な草原環境がないと生きていくことができないため、生物多様性の豊かな草原環境のシンボルとして、たいへんわかりやすいものです。

いつまでもタイワンツバメシジミが見られるよう、このチョウを守る活動へのご参加・ご協力・ご支援をお願いいたします

## タイワンツバメシジミの生息状況

### 各県における状況

**和歌山：**すさみ町および那智勝浦町において 1955-1957 年にかけてわずかな記録があるのみ。

**愛媛：**宇和島市におけるわずかな記録があるのみ。1981 年の記録が最後。

**徳島：**牟岐町における記録があるのみ。1968 年の記録が最後。

**高知：**室戸岬～足摺岬の海岸沿いに点々と記録されており、四国ではもっとも生息域が広く、生息地も多かったが、生息環境の改変等によって減少し、2003 年の記録が最後。

**福岡：**若杉山や福岡市、久留米市などで生息が確認されていたが、1970 年代より減少し、1991 年の記録が最後。

**佐賀：**かつては比較的広い範囲に生息していたが、1980 年代より大きく減少し、近年は伊万里市での確認のみ。

**長崎：**かつては本土部、平戸島、生月島、五島列島などに広く見られたが、大きく減少

し、近年は本土部で確認されておらず、平戸・生月、五島でも生息地が非常に少なくなっている。

**熊本：**熊本市、天草町、津奈木町、御船町などの比較的広い範囲で生息が確認されていたが、1970 年代より減少し、現在は県央・県南・天草地域にわずかに残るのみ。

**大分：**かつては比較的広い範囲に生息が確認されていたものの 1980 年代より急速に減少し、近年は蒲江町でのわずかな記録があるのみ。

**宮崎：**かつては全域に見られたが、1990 年代より大きく減少し、生息地は中北部ではほぼなくなり、南部でも少なくなっている。

**鹿児島：**かつては全域に見られたが、1980 年代より減少し、生息地が少なくなっている。

**沖縄：**南西諸島亜種が生息していたが、1990 年代の記録が最後。

# 台湾ツバメシジミの形態

## 成虫の特徴



### ◆オス・メスの区別点

- ・オスは表が紫青色に光るのに対し、メスでは全体に黒色。裏面は雌雄でまったく同様。
- ・オスは生息地を旋回するように飛翔するが、メスはオスよりもゆっくり飛び、シバハギの周りで産卵していることが多い。

## 近似種との区別点

台湾ツバメシジミと似たチョウは比較的多く、初めての方は、他の種と間違えないように注意が必要。

### ツバメシジミ



### ヤマトシジミ (左から3つ)・シルビアシジミ (4つ目)



### ルリシジミ

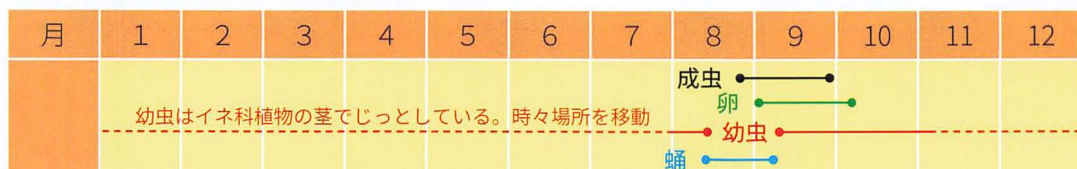


### クロマダラソテツシジミ



# タイワンツバメシジミの生態

## タイワンツバメシジミの生活史



※時期は、生息地の暖かさにより多少異なる場合があります。

## 生態的な特徴と生活史

- ◆ 成虫は年1回、8月下旬～9月中旬に出現し、9月下旬まで見られます。
- ◆ 幼虫の餌（以下「食草」）はシバハギ (*Desmodium heterocarpon*) が主となっており、ヒメノハギ (*D. microphyllum*) も記録されていますが、ヒメノハギの生育地は少なく、利用は限られます。
- ◆ メスは、花茎に1卵ずつ産みつけます。メスの生涯の産卵数は120卵程度です。卵は非常に小さく、幅は0.5mm程度です。
- ◆ 卵は4～5日間ほどでふ化し、幼虫はシバハギの豆果の皮や豆の部分を食べる急速に成長します。4～5日程度で脱皮を繰り返し、4齢幼虫になったのちに十分にえさを食べると、その後は食草の周辺に移動し、イネ科植物（チガヤ、ススキ、ダンチク等）の枯れた葉鞘部などに潜り込んで冬を越します。
- ◆ 孵化したばかりの幼虫は非常に小さく、1.5mm程度ですが、終齢幼虫になると1cm程度まで大きくなります。
- ◆ 冬を越した幼虫は、時には動いて快適な場所に移動するものの、基本的には動かずにじっとしています。そして、8月中旬頃になると、周囲の場所に移動し、蛹になり、1～2週間で成虫が羽化します。
- ◆ 成虫は、食草であるシバハギの周辺を低く飛びます。オスはやや飛び方が速く、葉上の見晴らしのよい場所に定位したり、シバハギの周辺を飛翔しながらメスを探します。メスはシバハギの花の周りの低い位置を飛んでいることが多く、産卵行動もよく観察されます。
- ◆ シバハギは花蜜を出さないため、タイワンツバメシジミは、キツネノマゴやヤマハギなどのハギ類で吸蜜します。
- ◆ 成虫は羽化した周囲を飛ぶことが多いですが、移動性も高く、シバハギを探すために、羽化した場所を離れる個体も少なくありません。
- ◆ 成虫の寿命は2～3週間程度です。



シバハギの花茎に産みつけられた卵（9月）



シバハギの豆果を食べる3齢幼虫（9月中旬）



ススキの枯れた葉鞘内で越冬する幼虫（11月）



枯草についた蛹（8月）

# タイワンツバメシジミの生息環境

タイワンツバメシジミの生息には、幼虫の餌であるシバハギが重要であり、シバハギが生える場所が生息環境となります。

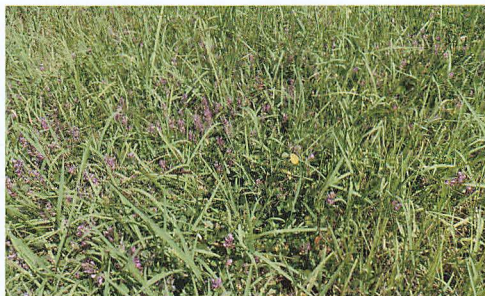
シバハギは、日当たりのよい草地や荒地などに生える植物であり、草地の草丈が高くなってくると、覆われてシバハギは衰退してしまうため、植生遷移の初期段階がもっとも適しています。

このシバハギが生える環境としては、大きく、  
①定期的に草刈りをされている環境  
②がけ地などの草丈が低く維持される環境  
③土砂が攪乱される環境（伐採地や植林地、工事等で土砂がむき出しになった場所）  
の3つに分けられ、下記で紹介したように、様々な場所となります。



**道路上まで茎が伸びた食草のシバハギ**

日当たりのよい場所を求めて、舗装道路の縁からシバハギが道路の上まで茎を伸ばし広がっている。



**草地に生えるシバハギ**

シバハギは9月に花が目立つので、見つけやすい。草刈りがされなくなると衰退していく。

## ① 定期的に草刈りされる環境



**採草地** 牛の飼育のために定期的な草刈りがされると、草丈が低く維持され、良好な環境となる。

## ② 草丈が低く維持される環境



**林道脇の斜面**

土壌が貧弱であったり、立地の点から樹木が発達しづらく、シバハギの良好な生育地となる。

## ③ 土砂が攪乱される環境



**風力発電等による道路建設地**

土壌の攪乱後の場所はシバハギが繁茂しやすい。



**農地周囲の畔** 農地周辺は頻繁に草刈りされ、草丈が低く維持される。



**牧場**

放牧によって、草丈が低く維持されシバハギが生え、タイワンツバメシジミが生息する場所もあるが、放牧圧が高い場所では、シバハギがなくなる。



**林道脇の草地** 定期的に草刈りされ、草丈が低く維持される。



**伐採地に繁茂するシバハギ**

伐採や搬出に伴う道の造成等で、土砂がむき出しになった場所は、シバハギが繁茂しやすい。

# タイワンツバメシジミの減少要因

タイワンツバメシジミの減少要因としては、第一に道路や農地開発等による生息環境の改変があり、大規模な開発によって、多くの生息地が失われたことでした。

次に大きく影響を与えたのは、草地の管理放棄です。5ページのように、このチョウの生息地の多くは、人の手によって環境が維持されてきましたが、草の利用がされなくなったことで、採草地が放棄されたり、農地の減少によって管理がされず、草地の植生が変化し、森林へと遷移してしまった場所もあります。

近年では、生息地が限定されてくる中で、次の4つがタイワンツバメシジミに大きな影響を与えるようになっており、これらに配慮することが必要となります。

## ①シバハギの開花前の草刈り

シバハギは開花期～1ヵ月前ぐらいに草刈りがされると、成虫の発生時期に花が咲かなくな



### 草刈りの放棄によって植生が変化

草刈りがされなくなると、草地の草丈が高くなり、最終的には森林へと遷移し、シバハギも消失する。



### 火入れ

火入れが行われる早春には、タイワンツバメシジミの幼虫は枯草にとまってじっとしており、火入れによって燃えてしまう。

り、産卵ができなくなってしまう。

## ②刈った草の撤去

4ページに示したように、11月～翌年の8月まで生息地には幼虫があり、刈った草を撤去してしまうと幼虫がいなくなってしまう。

## ③草原の火入れ

火入れの時期（早春）には、幼虫は枯草についており、火が入ると死んでしまいます。かつての草原は草刈りがされることで火が入らない場所があり、そこで生き延びるため、草地の維持とチョウの生息のバランスが保たれていました。しかし、現在では火が全体に入るため、例えば長崎県平戸市の川内峠ではシバハギが十分ありますが、生息できません。

## ④干ばつ

極端な干ばつによって、シバハギが開花せず、成虫は産卵できなくなってしまう。



### 8～9月の草刈りで、シバハギが咲かなくなる

シバハギは、8月以降に草刈りをすると、開花しなくなり、タイワンツバメシジミが産卵できなくなる。



### 干ばつ

やや乾燥した場所でも育つシバハギだが、まったく雨が降らないと開花せず、タイワンツバメシジミが産卵できなくなり、途絶えてしまう。

# タイワンツバメシジミの保全

タイワンツバメシジミを守るためには、草丈の低い草地を維持・再生し、このチョウの生態に配慮した管理を行う必要があります。さらに、少数の孤立した生息地ではなく、数多くの生息地がネットワークとしてつながっている状態を、全体として維持していくことが必要です。

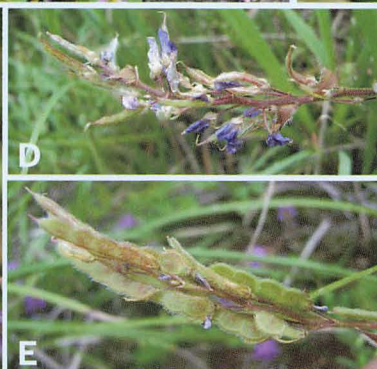
## 保全の方法

- **現在の生息地を大切にし、好適な環境を維持する**  
生息地は非常に少なくなっているため、現在の生息地が開発等で消失しないようにするとともに、定期的に人為的な管理を行い、良好な環境を維持・再生します。
- **個々の生息地の面積を大きくし、隣接した生息地のネットワークを維持・創出する**  
生息地のそれぞれが小さく、孤立している状態では、チョウが長期にわたって生存していくことができません。個々の生息環境をなるべく広く維持すると同時に、成虫が移動できる範囲に多くの生息地を作ることが必要です。そのためには、すでに絶滅した場所や生息環境が悪化した場所でも、積極的に環境を復元することが有効です。
- **個体数の調査を毎年継続して行う**  
現状ならびに保全対策の効果を把握するために、個体数を毎年モニタリングする必要があります。タイワンツバメシジミの場合には、成虫、卵、幼虫等でのモニタリングがしやすく、熟練してくると、正確にチョウの生息状況を評価することができます。
- **むやみにチョウの捕獲・採集を行わない**  
タイワンツバメシジミは現在、生息地が限定されており、採集が大きな脅威となります。また、西海国立公園の平戸島・生月島地域においては自然公園法の指定動物となっており、捕獲等が禁止されています。

- **タイワンツバメシジミに配慮した生息地管理を行う**  
シバハギの開花や成虫の時期は場所によりやや異なり、その場所に合わせて下記を参考に行ってください。

## 生息地の管理方法

|        | タイワンツバメシジミ             | シバハギ       | 草地の管理方法                                                                                                                               |
|--------|------------------------|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1-3 月  |                        | —          | —                                                                                                                                     |
| 4-5 月  |                        | 葉が出始める     | —                                                                                                                                     |
| 6-7 月  | 幼虫（ススキ等の枯草でじっとしている）    | 成長         | シバハギの部分は低く刈り、幼虫がいる可能性があるため、刈った草はそのままにするか、周囲に薄く置く（積み上げない）。シバハギの周囲に生育しているススキ等のイネ科植物には、幼虫がついているため、刈らずに残すか、地面からやや高い位置（30cm 程度）で刈り、周囲に薄く置く |
| 8 月    | 蛹                      | 下旬頃から咲き始める | 草刈りは行わない                                                                                                                              |
| 9-10 月 | 成虫・卵・幼虫                | 開花・結実      |                                                                                                                                       |
| 11 月   | 上旬頃までに幼虫はすべて休眠して動かなくなる | 結実         | 草刈りを行う場合は、すべての幼虫が越冬に入った 11 月中旬以降に行う。草刈り方法は、6-7 月と同様                                                                                   |
| 12 月   | 幼虫（ススキ等の枯草でじっとしている）    | 落葉する       |                                                                                                                                       |



### タイワンツバメシジミの幼虫の餌植物（食草）であるシバハギの特徴

8月下旬～10月にかけて開花し、ピンク色の花をつける（A・C）。地面を這うように広がり、定期的に草刈りされる丈の低い草地では、シバハギの高さも30cm以内と低いが、遷移が進んだ草丈の高い場所では、シバハギも高さが50cmを超えるように上に伸びる。葉は3小葉で小葉は長さ2.5-3cm、葉柄は短く1-2cm、葉の表に薄い色の部分がある（斑が入る）ことが特徴である（B）。花は開花後1週間ほどでDのようになりEを経て、最終的にFのような豆果をつける。

**タイワンツバメシジミの保全のための活動に、  
ご理解・ご協力・ご支援をお願いいたします。  
保全活動に関するご質問等については、  
下記の問い合わせ先にご連絡ください。**



問い合わせ先※

平戸・生月地域：佐世保自然保護官事務所

〒857-0041 長崎県佐世保市木場田町2-19 佐世保合同庁舎5F TEL 0956-42-1222

五島列島：五島自然保護官事務所

〒853-0015 長崎県五島市東浜町2-1-1 福江地方合同庁舎2F TEL 0959-72-4827

発行 環境省 九州地方環境事務所 国立公園課

〒860-0047 熊本県熊本市西区春日2-10-1 熊本地方合同庁舎B棟4階  
TEL 096-322-2412

※これら以外の地域（佐賀・宮崎・鹿児島等）につきましては、それぞれの活動団体にお問い合わせいただくか、日本チョウ類保全協会（東京都品川区大井4-1-5-201 TEL 03-3775-7006）までお問い合わせください。



発行：2025年3月

作成：平戸市観光協会・日本チョウ類保全協会

作成協力：岡田遼太郎・小松孝寛・熊谷信晴

写真協力：小松孝寛